実践テーマ「指導の目的を踏まえたALTや１人１台端末の活用」

紋別市立潮見小学校

Junior Sunshin 第５学年〔単元名〕**Where is your treasure?　宝物への道案内をしよう**

P

〔単元の目標〕

・自分のドリームタウンを相手に配慮して道案内をすることができる。

D

〔単元の目標の達成に向けた手立て〕

目指す子ども像
・英語に対しての**抵抗感**が少ない
・「**できた！**」を感じることができる
・新しいＡＬＴに**積極的なコミュニケーション**

	手立て	資料
①	ICT活用することで、英語を話す必然性をより意識しやすいものにする。	A
②	本時・単元を通して「できた！」を感じられる課題設定・振り返り	×

C

〔単元の目標の達成状況〕

・90%以上の児童が自信をもって自分のドリームタウンを道案内することができた。
・様々な相手と何度も繰り返しやりとりを行うことで、言語材料の定着や相手の行きたい場所をたずねる、聞くという必然性を意識することができた。

A

〔改善の方向性〕

・ルーブリック等を作成し、１単元を通した流れ、評価規準を児童と明確にする。
・マスの見方、進め方が分かりやすいような工夫をする。

単元の目標の達成に向けた手立ての具体

①ICT活用することで、英語を話す必然性をより意識しやすいものにする。

〔児童（生徒）の活動〕	〔教師の指導〕	〔工夫点〕
○　**言語材料の共通理解** 本単元で扱う言語材料を、児童全員が共通して通じ合えることのできる言語となるよう、何度も繰り返し練習をする。	○　宝探しゲームやロボットなりきりゲームなどを通して、どんな相手でも習得した言語でたくさん話すことのできる環境を作る。	○　毎時間の導入で位置付けている繰り返し練習を少しずつレベルアップや変化をさせながら取り組ませる。
○　**スクールタクトの活用** スクールタクトを使って自分のドリームタウンを作成する。 	○　自分の町に欲しいもの、なくてならないものをそれぞれ考え、教師の作成したスクールタクトに町を作らせた。 ○　相手の状況、気分に合わせて目的地を決め、道案内を行うことで必然性、相手に配慮する気持ちをもたせた。	○　自分の手で動かしながら実際に操作し、目的地まで動かす。

昨年度はJamboard を活用

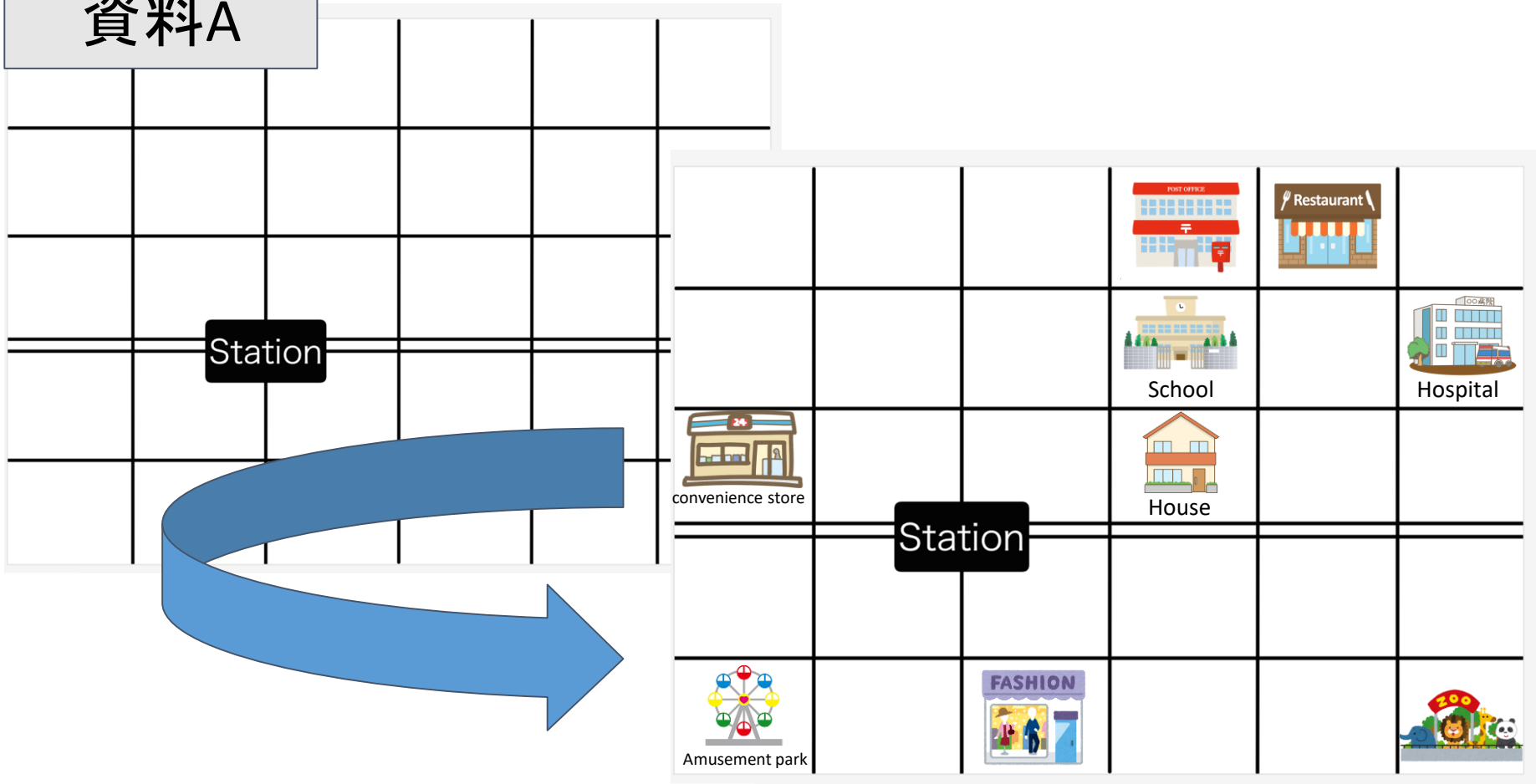
単元の目標の達成に向けた手立ての具体

②本時・単元を通して「できた！」を感じられる課題設定・振り返り

〔児童（生徒）の活動〕	〔教師の指導〕	〔工夫点〕
○　単元ゴールのデモンストレーション（Ｂ評価レベル）を見て、目指すべきゴールをイメージする。 ○　Ａ評価レベルを児童と一緒に考えることで目指すゴール像をはっきりさせる。 ○　毎時間のToday’s goal、振り返りを繰り返し行うことで45分で「できた」ことを実感できるようにする。	○　児童に活動のイメージもたせられるよう、視覚的に分かりやすく想像できるものにする。（実際のスクールタクトを見せる） ○　単元の目的を把握の上、本時で何を学んでいくのかを全員で共有しながら進める。 ○　単元の流れを理解し、前時との関わりを理解した上で、スモールステップでレベルアップさせていく。	
○　スクールタクトを活用し、様々な場面・内容で実践する。	○　児童が「やりたい！」と感じられる活動を通して、様々な場面・相手で実施し定着させる。	低位の児童に寄り添った指導

実践中 → ルーブリック

資料A


Station
POST OFFICE
Restaurant
School
Hospital
convenience store
House
Station
Amusement park
FASHION
ZOO

資料B

スクールタクト

★　紙ではできなかった**「動く教材」**を簡単に作成したり、タブレットで撮影した写真を一瞬で児童生徒に配付し、児童生徒同士で共有するなど、児童生徒、先生の授業をサポートする様々な機能があります。

★　スクールタクトにプリセットされている教材や、PDF教材・写真をアップロードし、授業で活用することで、児童の学習状況をリアルタイムに確認することができるとともに、児童個々の積極性や学習記録を可視化することで、学習理解度の把握が可能です。

　また、児童同士の回答を共有することで、**「みんなで学び合う」**学習環境を作ることができます。

schoolTakt - まなびポケット｜公立学校で使える教育ICT！ (ed-cl.com)参照